

CELSIUS

Workstation Series

CELSIUS M420

B5FH-9601-03-02

取扱説明書

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書では次の項目を説明しています。

本書をお読みにする前に	2
1. 必ずお読みください	11
梱包物の確認	11
設置について	11
接続について	11
電源を入れる	15
セットアップ	16
Windows 2000 のリカバリ CD-ROM を作成する	24
電源を切る	25
2. 必要に応じてお読みください	26
ご購入時の設定に戻す	26
エラーについて	26
リカバリ	29
リカバリ操作	30
お問い合わせ先	32
リサイクルについて	33

CELSIUSマニュアルについて

機器の取り付け、ソフトウェア、トラブルシューティング、およびカスタムメイドオプションなどの内容は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/>) 内の『CELSIUS マニュアル』に記載されています。『CELSIUS マニュアル』は、「スタート」ボタン→「(すべての) プログラム」→「CELSIUS マニュアル」から参照してください。

FUJITSU

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、『取扱説明書』の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、『取扱説明書』およびマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- 修理後は、本製品の内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクなどに複写して、保管しておいてください。
- 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は、製造終了後5年です。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本製品にインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

- 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本製品でのみ使用できます。なお、お客様は本製品のご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
- バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
- 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
- 複製
(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
- 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア（本製品に添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされた製品とともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本製品に添付されている媒体を本製品とは別に第三者へ譲渡することはできません。
- 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
- 保証の範囲
(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本製品をご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本製品をご購入いただいた日から 1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記 (1) の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
- ハイセイフティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「SupportDesk」を用意しております。
お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお申し込みください。

■ Support Desk

ハード障害発生時の修理を行う「Product 基本／基本 24」に加え、お客様のご要望に応じてオプションメニューをご用意しております。また、価格面でよりお得な「保証アップグレードパック」や「ビックアップ & デリバリ」もございます。

- ・ Product 基本／基本 24
 - ・ オンサイト修理、情報提供
専用窓口をご用意し、障害発生時のスムーズな受付を行ないます。
受付は「基本」：月曜日～金曜日の 9:00 ～ 19:00（祝日、年末年始を除く）、「基本 24」：24 時間 365 日
受付後、専任スタッフがお客様先に訪問し、速やかに修理を行います。
障害対応履歴については、お客様専用ホームページにてご確認ください。
 - ・ 定期点検
定期的に次のような予防保守を行います。
 - 点検、整備、摩耗部品交換（消耗品は対象外）
 - 清掃、調整等
 - ・ PC ソフトサポート（オプション）：ソフト QA 対応
パソコンのブレインストールソフトウェアについて QA 対応を行います。
- ・ 保証アップグレードパック：オンサイト修理
保証期間分の割引価格を予め想定したお得な修理サービスのパック商品です。（各 3、4、5 年パック）
商品添付の「お客様登録票」を発送するだけで、直ぐにサービススタートが可能です。
- ・ ビックアップ & デリバリ：引取修理
訪問型修理ではなく、お客様の修理依頼にもつぎパソコンの引取修理を行なうサービスです。
「Product 基本」よりも割安な価格設定を行っております。
9：00 ～ 16：00 受付 当社翌営業日 AM 中（9：00 ～ 12：00）に引取
16：00 ～ 19：00 受付 当社翌営業日 PM 中（12：00 ～ 21：00）に引取
引取後、4 ～ 6 営業日で修理・返却します。
但し、障害の程度によってはそれ以上の期間を要することもあります。

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（<http://www.microsoft.com/japan/>）。
お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。
したがって、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。
ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。
また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。
データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

添付の CD-ROM などは大切に保管してください

これらのディスクは、本製品に入っているソフトウェアをご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。
Windows 2000 ダウングレードモデルをお使いの場合は、セットアップ後に作成したリカバリ CD-ROM も大切に保管してください。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・ 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

注 意

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品には、有寿命部品（CRT、液晶ディスプレイ、ハードディスクなど）が含まれており、長時間連続で画面を表示させたり動作させたりした場合、早期の部品交換が必要になります。保証期間は 1 年間です（契約により異なる場合があります）。

- ・ 液晶ディスプレイは寿命とは別にご使用時間によって輝度が低下します。

本製品の使用環境は、温度 10 ～ 35℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 -10 ～ 60℃／湿度 20 ～ 80%RH（非動作時）です（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本製品は日本国内仕様であり、海外での保守サービスおよび技術サポートは行っておりません。

本製品には、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。したがって、本製品を輸出する場合には、同法に基づく許可が必要となる場合があります。

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。
(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

本製品は、社団法人電子情報技術産業協会が定める高調波ガイドライン適合品です。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていることを判断します。



本製品の構成部品（プリント基板、CD/DVD ドライブ、ハードディスクなど）には、微量の重金属（鉛、クロム）や化学物質（アンチモン、シアン）が含まれています。

エネルギー消費のお知らせ

■ 定格電流：最大 7A（アウトレット最大 3A を含む）

■ 電源 OFF 時の消費電力：5W 以下^注

(電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、メインスイッチを「○」側に切り替えるか、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください)

■ 動作時の最大消費電力、最小消費電力

・ 最大消費電力：約 320W^注

・ 最小消費電力：約 70W^注

(ご使用になる機器構成により値は変動します)

注：ディスプレイの電源をアウトレットから供給しない場合の電力値です。

高性能無停電電源装置のバッテリー

電源の投入／切断時間にかかわらず約 2 年経過すると交換時期となりますが、周囲温度により、バッテリー寿命が短縮されることがあります。詳細につきましては、高性能無停電電源装置の取扱説明書をご覧ください。

安全上のご注意

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

警告表示について

■ 電源・電圧・接続について

警告



- 電源ケーブルを接続する前に、必ずアースを接続してください。
アースを接続しないと、感電のおそれがあります。



- アース線はガス管には絶対に接続しないでください。
火災の原因となります。



- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。



- 添付の電源ケーブル以外は使用しないでください。
感電・火災の原因となります。



- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



- 電源ケーブルやコネクタの金属部分に手を触れないでください。また、電源プラグを抜いた直後は、プラグに触らないでください。
感電の原因となります。



- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。



- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。
修理は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



- 電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因となります。



- カバーを外した状態で電源プラグをコンセントに差し込んだり、電源を入れたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



- 周辺機器の取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



- 近くで落雷のおそれがある場合は、ワークステーション本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては機器を破壊し、感電・火災の原因となります。

⚠ 注意



- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。



- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となることがあります。



- 電源ケーブルは壁のコンセントに直接接続してください。
延長ケーブルなどを使用すると、火災の原因となることがあります。



- ディスプレイ以外の機器（指定外の機器）を、ワークステーション本体に接続して電源を取らないでください。
火災・故障の原因となることがあります。



- 電源ケーブルを束ねて使用しないでください。
発熱して、火災の原因となることがあります。



- ケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態で使用すると、機器本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。

■ 本体・周辺機器の取り扱いについて

⚠ 警告



- 万一、機器から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生したときは、ただちに機器本体の電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、異常な現象がなくなるのを確認して、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。

異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。



- 異物（水・金属片・液体など）が機器の内部に入ったときは、ただちに機器本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



- 機器を落としたり、カバーなどを破損したときは、機器本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。



- 機器をお客様ご自身で改造しないでください。また、マニュアル等で指示がある場合を除いて分解しないでください。

感電・火災の原因となります。



- 開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

感電・火災の原因となります。



- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。

万一、飲み込んだときは、ただちに医師と相談してください。



- 機器本体に水をかけたり、濡らしたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



- 機器の上または近くに花びん・植木鉢・コップなどの水が入った容器や、クリップ・ピンなどの金属物を置かないでください。感電・火災の原因となります。



- 台所など、湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。

感電・火災の原因となります。



- 風呂場、シャワー室など、水のかかる場所で使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

⚠ 注意



- 機器の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。

バランスが崩れて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



- 機器の開口部（通風孔など）をふさがないように、機器と壁の間に 10cm 以上のすき間をあけてください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



- 直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高熱によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、機器内部が高温になり、火災の原因となることがあります。



- 使用中の機器は布などでおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもり、火災の原因となることがあります。

視力障害



- CD-ROM ドライブなどのレーザ光の光源部を直接見ないでください。
目を傷める原因となることがあります。



- 液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着したときは、流水で 15 分以上洗浄してください。
また、目に入ったときは、流水で 15 分以上洗浄したあと、医師に相談してください。
液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。



- 周辺機器を接続する場合には、弊社純正品をご使用ください。
弊社純正品以外の機器を使用すると、故障の原因となることがあります。



- フロッピーディスクをセットするとき、および取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指
などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。



- CD-ROM ディスクなどをセットするとき、および取り出すときには、CD-ROM ドライブなどのトレイやスロットに
指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。



- 周辺機器類、メインボードなどの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをす
るおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

■その他

⚠ 警告



- 梱包に使用しているポリ袋はお子様が入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。
窒息の原因となります。



- ディスプレイに何も表示できないなどの故障状態で本ワークステーションを使用しないでください。故障の修理は
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

⚠ 注意

健康に注意



- 本ワークステーションを無理な姿勢で長時間使い続けると、腰痛や腱鞘炎の原因となる場合があります。以下に示
すような正しい姿勢で使用し、1 時間に 10 分以上の休憩をとってください。
・ いすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
・ いすの高さを、足の裏全体がつく高さに調節する。
・ ひじは 90 度以上に伸ばして操作する。

- 健康に注意** ● ディスプレイを長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」等、目の傷害の原因となることがあります。1時間に10分間以上の休憩をとってください。また、なるべく画面を下向きに見る位置にする、意識的にまばたきをする、場合によっては目薬をさすなどしてください。
- 重量物** ● ディスプレイなどの重量のある機器を動かすときは、必ず2人以上で行ってください。けがの原因となることがあります。
- 感電** ● 機器を移動するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなども外してください。作業は足元に十分注意して行ってください。電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因となったり、機器が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 感電** ● 長期間機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。感電・火災の原因となることがあります。
- 聴力障害** ● ヘッドホンなどをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- 聴力障害** ● ヘッドホンなどをしたままワークステーション本体の電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- 発火** ● 本製品は連続動作（24時間動作）を目的に設計されておりません。ご使用にならないときは電源を切ってください。火災の原因となることがあります。
- 破裂** ● 機器の廃棄時には、他のゴミと一緒に捨てないでください。本製品はリチウム電池を使用しており、火中に投げると破裂の恐れがあります。

本書の表記

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
    ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。
[CD-ROMドライブ]:¥setup.exe

■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作



「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

また、本文中の操作手順において、操作手順の類似しているものは、あわせて記述しています。

例：「スタート」ボタン→「(すべての) プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■BIOS 設定の表記

本文中の BIOS の設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」(ハイフン)でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「：」(コロン)の後に記述する場合があります。

例：「Security」の「Setup Prompt」の項目を「Enabled」に設定します。



「Security」－「Setup Prompt」：Enabled

■CD-ROM、CD-R の使用について

本文中の操作手順において、CD-ROM を使用したり、CD-R へ書き込みをしたりすることがあります。

操作に必要なドライブが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/>) 内の「システム構成図」をご覧ください。

また、周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2004 年 2 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください (→ P.32)。

■カスタムメイドオプションについて

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドで選択のオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■Windows 2000 ダウングレードモデルについて

- Windows 2000 ダウングレードモデルは、Windows XP Professional をダウングレードし、Windows 2000 をブレイインストールしています。
- Windows 2000 ダウングレードモデルは、特に記載がない場合は、Windows 2000 に関する記載に従って操作してください。
- Windows 2000 ダウングレードモデルには、Windows XP Professional のリカバリ CD-ROM が添付されています。Windows 2000 をお使いになる場合は、Windows 2000 のリカバリ CD-ROM を作成してください (→ P.24)。

Windows 2000 ダウングレードモデルでは、Windows XP Professional へのリカバリまたは、Windows 2000 へのリカバリが可能です。リカバリ後は、それぞれの OS の情報をご覧ください。

■製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。
なお、本書ではお使いの機種、または OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
CELSIUS M420	本ワークステーション／ワークステーション本体		
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows 注
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000		
Matrox Millennium G450	Millennium G450		
NVIDIA Quadro® FX 1000	Quadro FX 1000		
NVIDIA Quadro® FX 2000	Quadro FX 2000		
3Dlabs Wildcat4 7110	Wildcat4 7110		

注：Windows XP/2000 のように併記する場合があります。

警告ラベル／注意ラベル

本製品には警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。
警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

CELSIUS マニュアルの参照

機器の取り付け、ソフトウェア、トラブルシューティング、およびカスタムメイドオプションなどの内容は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/>) 内の『CELSIUS マニュアル』に記載されています。
『CELSIUS マニュアル』は、「スタート」ボタン→「(すべての) プログラム」→「CELSIUS マニュアル」から参照してください。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel および Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
Matrox、Matrox Millennium は、Matrox Graphics Inc. の商標です。
NVIDIA、NVIDIA Quadro は、NVIDIA Corporation の登録商標です。
3Dlabs と Wildcat は、3Dlabs, Inc. の米国および他の国における登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003-2004

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

1. 必ずお読みください

梱包物の確認

『梱包物一覧』をご覧ください。添付品をご確認ください。
足りない部品などがあった場合は、できるだけ早く、ご購入元にご連絡ください。

設置について

本ワークステーションの設置場所、設置方法を説明します。

⚠ 注意



- 本製品の開口部（通風孔や冷却ファン）をふさがないでください。通風孔や冷却ファンをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

使用および設置に適さない場所

本ワークステーションを設置する場合は、次の場所は避けてください。

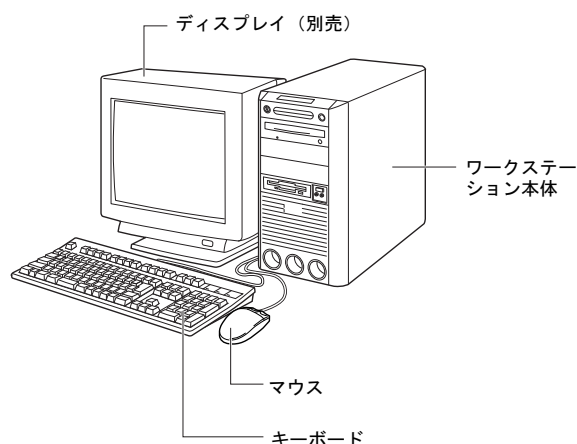
- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所
- 電源ケーブルに足が引っかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁界が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所
- 極端に高温または低温になる場所
- 結露する場所

POINT

- ▶ 本製品の使用環境は温度10～35℃／湿度20～80%RH（動作時）、温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時）です。
- ▶ 結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。温度の低い場所（クーラーの効いた場所、寒い屋外など）から、温度の高い場所（暖かい室内、炎天下の屋外など）へ移動した時に起こります。結露が発生すると故障の原因となりますので、ご注意ください。

設置例

本ワークステーションは次のように設置してください。



POINT

- ▶ ワークステーション本体は、壁などから10cm以上離して設置してください。
- ▶ 本ワークステーションは横置きに対応していません。図のように縦置きでご使用ください。

接続について

ワークステーション本体に、ディスプレイ、キーボード、電源ケーブルなどを接続します。

⚠ 警告



- アース接続が必要な製品は必ず、電源プラグをコンセントに接続する前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。アース接続をしないと、感電のおそれがあります。また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。火災の原因となります。



- ディスプレイ、キーボード、マウス、電源ケーブルの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。



- ディスプレイ、キーボード、マウスを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となることがあります。

⚠ 注意



- ケーブルの接続は、間違いがないようにしてください。

誤った接続状態でお使いになると、ワークステーション本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。



- 本ワークステーションを動かす場合は、接続しているケーブルなどをすべて取り外してください。接続したまま動かすとケーブルや本体のコネクタを破損させる恐れがあります。



- アウトレットはディスプレイの電源供給専用です。それ以外の用途には使用しないでください。

火災・故障の原因となることがあります。



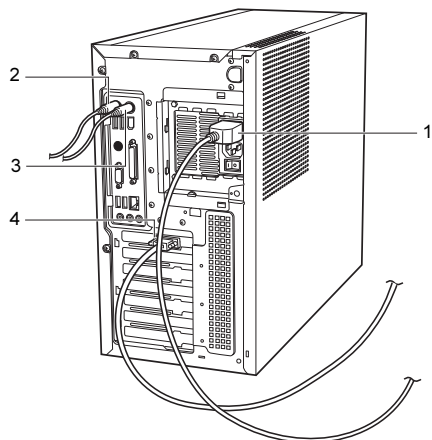
- プリント基板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

ディスプレイ／キーボード／マウスを接続する

POINT

- ▶ ここでは、ディスプレイの電源をワークステーション本体からとる場合の接続方法について説明しています。



1 電源ケーブルをアウトレットに接続します。

電源ケーブル(ディスプレイ用)の片方のプラグを、ワークステーション本体のアウトレットに接続し、もう一方のプラグを、ディスプレイ背面のインレットに接続します。

2 キーボードを接続します。

キーボードケーブルのコネクタに刻印されているマークの面を右側に向け、キーボードコネクタの色とワークステーション本体背面のキーボードラベルの色が合うように接続します。

3 マウスを接続します。

マウスケーブルのコネクタに刻印されているマークを右側に向け、マウスコネクタの色とワークステーション本体背面のマウスラベルの色が合うように接続します。

POINT

- ▶ USB マウス(光学式)をお使いになる場合は、ワークステーション本体前面、またはワークステーション本体背面の USB コネクタに接続します。このとき、コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。

4 ディスプレイケーブルをワークステーション本体に接続します。

ディスプレイケーブルのコネクタを、ワークステーション本体背面のディスプレイコネクタに接続し、ディスプレイケーブルのコネクタのネジを締めます。

POINT

- ▶ デジタルディスプレイを接続する場合、最低でも 640 × 480、800 × 600、1024 × 768 のすべての解像度(モード)に対応したデジタルディスプレイをお使いください。

対応していないデジタルディスプレイでは、正常に表示できません。

- ▶ ワークステーション本体とディスプレイが接続されていない場合、本ワークステーションが正常に起動しないことがあります。本ワークステーションの電源を入れる前に、必ずワークステーション本体とディスプレイがディスプレイケーブルで接続されているか確認してください。また、本ワークステーションの電源を入れた後は、ディスプレイケーブルの取り外しや取り付けを行わないでください。
- ▶ マルチディスプレイで使用する場合は、必ず Windows の初期設定を行ってから、もう 1 本のディスプレイケーブル(DVI-VGA 変換アダプタ経由の接続を含む)を接続してください。
- ▶ マルチディスプレイで使用する場合は、ディスプレイドライバの設定が必要になることがあります。詳しくは、『CELSIUS マニュアル』をご覧ください。

・ Millennium G450 の場合（標準モデル）

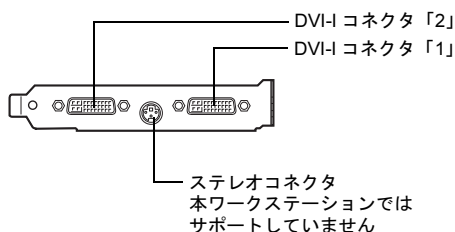


- ・ 1 台のディスプレイを接続する場合
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタに、添付の DVI-VGA 変換ケーブルを接続し、DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタに刻印されている「1」コネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。
デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。
- ・ マルチディスプレイ（2 台）で接続する場合
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタに刻印されている「2」コネクタに、もう 1 本のディスプレイケーブルを接続します。「1」コネクタに接続されたディスプレイがプライマリディスプレイ、「2」コネクタに接続されたディスプレイがセカンダリディスプレイとなります。

POINT

- ▶ マルチディスプレイで使用する場合以外は、「2」コネクタへディスプレイケーブルを接続しないでください。本ワークステーションが正常に動作しません。
- ▶ マルチディスプレイで使用する場合、デジタルディスプレイは使用できません。

・ Quadro FX 1000 の場合（カスタムメイドオプション）



- ・ 1 台のディスプレイを接続する場合
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「1」に、添付の DVI-VGA 変換アダプタを接続してからディスプレイケーブルを接続します。
デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「1」に、ディスプレイケーブルを接続します。

・ マルチディスプレイで接続する場合

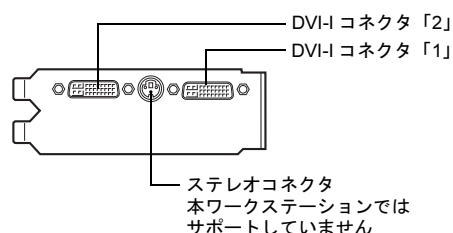
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「2」に別売の DVI-VGA 変換アダプタを接続してから、もう 1 本のディスプレイケーブルを接続します。

デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「2」に、ディスプレイケーブルを接続します。

POINT

- ▶ マルチディスプレイで使用する場合以外は、DVI-I コネクタ「2」へディスプレイケーブルを接続しないでください。本ワークステーションが正常に動作しません。

・ Quadro FX 2000 の場合（カスタムメイドオプション）

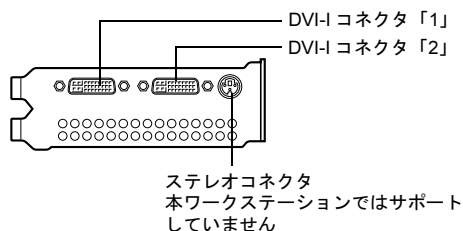


- ・ 1 台のディスプレイを接続する場合
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「1」に、添付の DVI-VGA 変換アダプタを接続してからディスプレイケーブルを接続します。
デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「1」に、ディスプレイケーブルを接続します。
- ・ マルチディスプレイで接続する場合
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「2」に別売の DVI-VGA 変換アダプタを接続してから、もう 1 本のディスプレイケーブルを接続します。
デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「2」に、ディスプレイケーブルを接続します。

POINT

- ▶ マルチディスプレイで使用する場合以外は、DVI-I コネクタ「2」へディスプレイケーブルを接続しないでください。本ワークステーションが正常に動作しません。

- ・ Wildcat4 7110 の場合（カスタムメイドオプション）



- ・ 1 台のディスプレイを接続する場合
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「1」に、添付の DVI-VGA 変換アダプタを接続してからディスプレイケーブルを接続します。
デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「1」に、ディスプレイケーブルを接続します。
- ・ マルチディスプレイで接続する場合
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「2」に、別売の DVI-VGA 変換アダプタを接続してからもう1本のディスプレイケーブルを接続します。
デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「2」に、ディスプレイケーブルを接続します。

POINT

- ▶ マルチディスプレイで使用する場合以外は、DVI-I コネクタ「2」へディスプレイケーブルを接続しないでください。本ワークステーションが正常に動作しません。

電源ケーブルを接続する

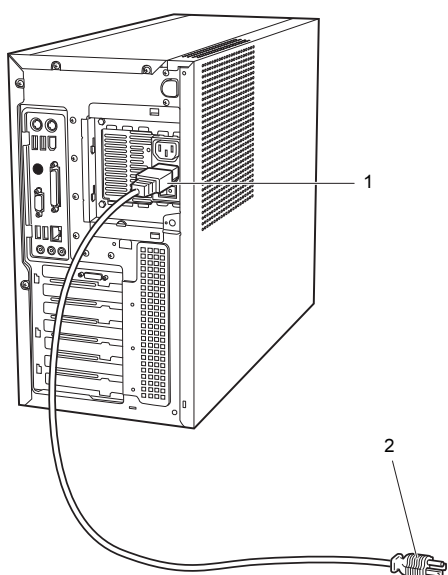
警告

- 感電 ● 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。
- 感電 ● 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
- 感電 ● 重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりしないでください。
- 感電 ● 電源ケーブルやプラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。

- 発火 ● プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 感電 ● 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 感電 ● 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては機器を破壊し、感電・火災の原因となります。
- 感電 ● 2 ピンのコンセントに接続する前に、添付のアダプタプラグを使って必ずアース線を接続してください。
アース接続ができない場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にご相談ください。
アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に、感電・火災の原因となります。

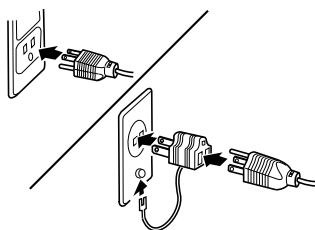
注意

- 故障 ● 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。
- 感電 ● プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線して、感電・火災の原因となることがあります。
- 発火 ● プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となることがあります。
- 感電 ● 長期間機器を使用しないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。



1 電源プラグをワークステーション本体背面のインレットに接続します。

2 電源プラグをコンセント (AC100V) に接続します。
片方のプラグを、コンセントに接続します。コンセントが 2 ピンの場合は、添付のアダプタプラグを取り付けてから、コンセントに接続します。
アダプタプラグに付いているアース線を、アース端子のネジにネジ止めします。



電源を入れる

注意事項

- ご購入後、初めて電源を入れる場合は、周辺機器の取り付けなどを行わないでください (→ P.16)
- 状態表示 LCD は、電源を入れると「電源表示」(Ⓐ) が点灯します。スタンバイ状態になると「スタンバイ表示」(Ⓑ) が点灯します。
- ワークステーション本体の電源を入れる前に、必ずディスプレイが接続されていることを確認してください。ディスプレイを接続しないでワークステーション本体の電源を入れると、ディスプレイが認識されず、カーソル、画面が正常に表示されない場合があります。もし正しく表示されない場合は、「電源を切る」(→ P.25) に従って電源を切り、

ディスプレイのケーブルを確認のうえ、再度電源を入れてください。

- ディスプレイの電源ケーブルを本ワークステーションに接続している場合、ディスプレイの電源は本ワークステーションの電源と連動して入ります。そのため、ディスプレイの電源ボタンは一度押しておけば、以後操作する必要はありません。

次回からは手順 3 の本体の電源ボタンを押すだけで電源が入ります。ただし、ディスプレイ以外の機器は、あらかじめ電源を入れておく必要があります。

- 本ワークステーションの電源とディスプレイの電源を連動させない場合は、本ワークステーションの電源を入れる前に、ディスプレイの電源を必ず入れてください。

特にデジタルディスプレイをお使いになる場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、必ずデジタルディスプレイの電源が入っていることを確認してください。ワークステーション本体の電源を入れたあとにデジタルディスプレイの電源を入れた場合、画面が表示されません。この場合、ワークステーション本体の電源を切り、そのあとに電源を入れ直してください。

- 画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイにあった周波数が設定されているか確認してください。それでも中央に表示されない場合は、ディスプレイ側で調整してください。

- 電源を入れた後すぐに電源を切る場合は、OS が起動してから「電源を切る」(→ P.25) に従って電源を切ってください。

- 電源を切った後すぐに電源を入れる場合は、10 秒以上間隔をあけてから行ってください。

- 画面表示の開始や表示モードが切り替わる時、一時的に画面が乱れたり、横線が見えることがあります (Windows の起動・終了画面、省電力モードからの復帰時など)。故障ではありませんので、そのままお使いください。

- 電源を入れた後、ディスプレイに CELSIUS ロゴが表示されている間に、本ワークステーションは、ワークステーション内部をチェックする「POST (ポスト: Power On Self Test)」を行います。POST 中は電源を切らないでください。POST の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます (→ P.26)。

- マルチディスプレイでお使いの場合、電源を入れたときの CELSIUS ロゴは次のように表示されます。

グラフィックスカード	「CELSIUS」ロゴの表示
Millennium G450	DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタ「1」と「2」に接続したディスプレイの両方で表示
Quadro FX 1000	DVI-I コネクタ「1」と「2」に接続したディスプレイの両方で表示
Quadro FX 2000	DVI-I コネクタ「1」と「2」に接続したディスプレイの両方で表示

グラフィックスカード	「CELSIUS」ロゴの表示
Wildcat4 7110	DVI-I コネクタ「I」に接続したディスプレイのみ表示

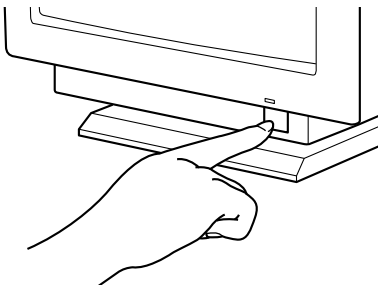
- 周辺機器の取り付けなどのとき、サイドカバーを取り外したまま電源を入れないでください。
- 画面に何も表示されないときは、次のことを確認してください。
 - ・ ワークステーション本体背面のメインスイッチは「|」側に切り替えていますか。
 - ・ ディスプレイの電源ボタンは入っていますか。
 - ・ 省電力モードが設定されていませんか。
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。状態表示 LCD の「スタンバイ表示」(⏻) が点灯している場合、ACPI モードのスタンバイ状態に移行している可能性があります。電源ボタンを押してください。電源ボタンを押してから 30 秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源ボタンを 4 秒以上押し続け、電源を一度切ってください。
 - ・ ディスプレイのケーブルは、正しく接続されていますか (→ P.12)。
 - ・ ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットに接続されていますか (→ P.12)。
 - ・ ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか。ブライトネス/コントラストボリュームで画面を調節してください。

電源の入れ方

⚠ 注意

- 電源を入れたら、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
故障の原因となります。
- 冬季など本製品が冷えきっているときは、温度を急激に上げないようにして本製品が十分暖まってから電源を入れてください。
本製品内部に水滴がつき、故障の原因となることがあります。

- 1 ディスプレイなどの周辺機器の電源ボタンを押します。
この時点では、画面には何も表示されません。



- 2 ワークステーション本体背面のメインスイッチを「|」側に切り換えます。

POINT

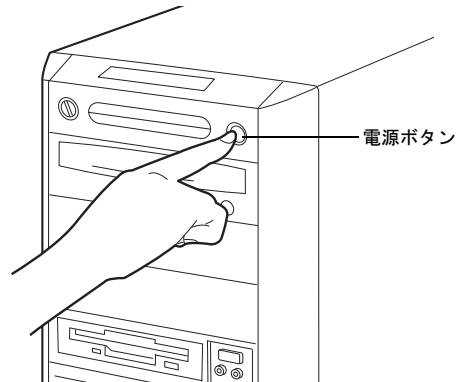
- ▶ 一度「|」側に切り換えたら、本ワークステーションを起動する度に切り換える必要はありません。

- 3 ワークステーション本体の電源ボタンを押します。

ディスプレイの電源ランプと、ワークステーション本体の状態表示 LCD に「電源表示」(Ⓢ) が点灯します。電源が入ると、ディスプレイに「CELSIUS」のロゴを表示後、システムが起動します (「CELSIUS」のロゴが表示されている間に POST が行われています)。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては、画面表示が遅く「CELSIUS」のロゴの表示が確認できない場合があります。



初めて電源を入れた後は、続けて Windows のセットアップを行います (→ P.16)。

セットアップ

初めて電源を入れた後に行う Windows の初期設定 (Windows セットアップ) について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

次の「留意事項」をよくお読みになり、電源を入れて Windows セットアップを始めます。

留意事項

- Windows セットアップを行う前に、次のことをしないでください。Windows セットアップが正常に行われなかったり、エラーメッセージが表示される場合があります。
 - ・ 周辺機器の取り付け (カスタムメイドオプションを除く)
 - ・ LAN ケーブルの接続
 - ・ オプションカードのセット

- ・ BIOS をご購入時の設定から変更

上記の項目は、セットアップを行い、「必ず実行してください」を実行してから、行うようにしてください。

- Windows セットアップの各ウィンドウが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windows セットアップが正常に行われない場合があります。ウィンドウが完全に表示されてから、マウスで操作してください。
- マルチディスプレイで使用する場合、必ず Windows のセットアップを行ってから、もう一方のディスプレイケーブル (DVI-VGA 変換アダプタ経由の接続含む) を接続してください。

Windows XP セットアップ

POINT

- ▶ Wildcat4 7110 をグラフィックスカードに使用している場合、リカバリ後のセットアップ時、画面表示が見えにくい状態になります。スクロールバーなどで画面を動かし、セットアップを進めてください。
なお、セットアップ後グラフィックスドライバをインストールすれば、通常に戻ります。

- 1 本ワークステーションの電源を入れます (→ P.15)。
しばらくすると、「Microsoft Windows へようこそ」が表示されます。
- 2 「次へ」をクリックします。
「使用許諾契約」が表示されます。
「使用許諾契約」は、本ワークステーションにあらかじめインストールされている Windows を使用するうえでの契約を記述したものです。
- 3 「使用許諾契約」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「コンピュータに名前を付けてください」と表示されます。

POINT

- ▶ 「同意しません」を選択した場合は、「次へ」をクリックした後、メッセージに従って操作してください。
- 4 「このコンピュータの名前」と「コンピュータの説明」を入力し、「次へ」をクリックします。
「コンピュータの説明」は省略できます。
また、コンピュータの名前や説明は、セットアップ終了後にあらためて設定することができます。
「管理者パスワードを設定してください」と表示されます。
 - 5 「管理者パスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。
「このコンピュータをドメインに参加させますか？」と表示されます。

POINT

- ▶ パスワードでは大文字／小文字が区別されます。

- 6 「いいえ ...」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「インターネット接続を確認します」と表示されます。しばらくすると、「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されます。

POINT

- ▶ 「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？」と表示された場合は、手順 8 へ進んでください。

- 7 「省略」をクリックします。
「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？」が表示されます。
- 8 「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「設定が完了しました」と表示されます。
- 9 「完了」をクリックします。
本ワークステーションが再起動する場合があります。
パスワードの入力画面が表示されます。

重要

- ▶ セットアップ前にリカバリを行っている場合は、「グラフィックスドライバのインストール」 (→ P.20) へ進んでください。
この場合、以降の手順は行わないでください。

- 10 手順 5 で入力したパスワードを入力し、「→」をクリックします。
- 11 「スタート」メニューの「必ず実行してください」をクリックします。
「このワークステーションに最適な設定を行います」というウィンドウが表示されます。

重要

- ▶ 「必ず実行してください」を行わないと、セットアップの最終設定が行われません。必ず手順どおりに実行してください。

- 12 「実行する」をクリックします。
最終設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

重要

- ▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「実行する」をクリックしてください。

13 「OK」をクリックします。

本ワークステーションが再起動します。

重要

- ▶ 「復元ポイントの作成」を行う場合は、「必ず実行してください」を実行後、再起動してから行ってください。

これで、Windows セットアップが完了しました。

■セットアップ後

- 『CELSIUS マニュアル』をご覧になるためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、LAN の設定を行ってください。
- 「Windows Update」の実行をお勧めします。
「Windows Update」を実行すると、Windows を最新の状態に更新、修正できます。実行にあたっては、システム管理者の指示に従ってください。
「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。
「Windows Update」の実行方法については、『CELSIUS マニュアル』の「ソフトウェア」－「Windows Update について」をご覧ください。
- 本ワークステーションでは、ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能をお使いになれます。

POINT

- ▶ ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能とは、OS 上で物理的な 1 つの CPU を仮想的に 2 つの CPU のように見せることにより、1 つの CPU 内でプログラムの処理を同時に実行し、CPU の処理性能を向上させるテクノロジーです。複数のソフトを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。
 - ・ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能を有効にするための手順
 1. BIOS セットアップを起動します。
 2. 「Advanced」メニューの「Hyper-Threading」を「Enabled」に設定します。
本ワークステーションのご購入時の設定は、「Disabled」です。
 3. 「Exit」メニューの「Save Changes & Exit」を選択して、【Enter】キーを押します。
「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。
 4. 「Yes」を選択して、【Enter】キーを押してください。
本ワークステーションが再起動します。
 5. 再起動後、デバイスマネージャで下記の状態になっていることを確認してください。
 - 「コンピュータ」: ACPI マルチプロセッサ PC

- 「プロセッサ」: Intel(R) Pentium(R) 4 CPU x.xxGHz
(カスタマイズの選択により、お使いのCPUが表示されます)

「プロセッサ」には同じ名称が 2 つ表示されます。

- ▶ ご使用になるソフトウェア（本体添付のソフトウェアを含みます）の組合せによっては、ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能により次のような現象が発生する場合があります。
 - ・処理速度が向上しない。または逆に低下する。
 - ・Windows のシャットダウン時、または再起動時に正常に終了せずに途中で停止する。
 - ・Windows のシャットダウン時、または再起動時に「プログラムの終了」ウィンドウで、「このプログラムは応答していません」が表示される。その場合は、BIOS セットアップを起動し、「Advanced」－「Hyper-Threading」を「Disabled」に設定してからリカバリを行い、ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能を無効にしてご使用ください。
ソフトウェアのハイパー・スレッディング・テクノロジー機能への対応状況については、各ソフトウェアの販売元にご確認ください。
- ▶ ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能をいったん有効に設定した後、無効の状態に戻す場合は BIOS セットアップを起動し、「Advanced」－「Hyper-Threading」を「Disabled」に変更してからリカバリを行ってください。

Windows 2000 セットアップ

POINT

- ▶ セットアップ中に「Windows 2000 Professional CD 上のファイル `xxxxx.xxx` が必要です。」というメッセージが表示されることがあります (xxxxx.xxx には courf.fon などのファイル名が入ります)。この場合は、「コピー元」に「c:\support\i386」と入力し、「OK」をクリックして、セットアップを続けてください。
また上記メッセージが表示された場合は、セットアップが完了した後、「Windows 2000 Service Pack4」を再インストールしてください (→『CELSIUS マニュアル』)。

- 1 本ワークステーションの電源を入れます (→ P.15)。
しばらくすると、「Windows 2000 セットアップウィザードの開始」が表示されます。
- 2 「次へ」をクリックします。
「ライセンス契約」が表示されます。
「使用許諾契約書」は、本ワークステーションにあらかじめインストールされている Windows を使用するうえでの契約を記述したものです。

- 3 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「ソフトウェアの個人用設定」が表示されます。

POINT

- ▶ 「同意しません」を選択した場合は、「次へ」をクリックした後、メッセージに従って操作してください。

- 4 「名前」と「組織名」を入力し、「次へ」をクリックします。
「組織名」は省略できます。
「コンピュータ名と Administrator のパスワード」が表示されます。

- 5 「コンピュータ名」、「Administrator のパスワード」と「パスワードの確認入力」を入力し、「次へ」をクリックします。
「ネットワークの設定」が表示されます。
ネットワークの設定については、セットアップ完了後にネットワーク管理者に確認し、ご使用の環境に合わせて設定してください。

POINT

- ▶ パスワードでは大文字／小文字が区別されます。

- 6 「標準設定」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「ワークグループまたはドメイン名」が表示されます。

POINT

- ▶ 「標準設定」では、次のネットワークコンポーネントがインストールされます。

- ・ Microsoft ネットワーク用クライアント
- ・ Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
- ・ インターネットプロトコル (TCP/IP)

- 7 「このコンピュータはネットワーク上にないか、ドメインのないネットワークに接続している」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「Windows 2000 は正常にインストールされました。」と表示されます。

- 8 「再起動する」をクリックするか、または 15 秒待つと本ワークステーションが再起動します。
「ネットワーク識別ウィザードの開始」が表示されます。

重要

- ▶ 「ネットワーク識別ウィザード」ウィンドウが表示されたとき、「戻る」をクリックしないでください。
再設定が必要な場合は、設定終了後に該当箇所を修正してください。

- 9 「次へ」をクリックします。
「このコンピュータのユーザー」が表示されます。

- 10 「ユーザーはこのコンピュータを ...」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「ネットワーク識別ウィザードの終了」が表示されます。

POINT

- ▶ 必ず「ユーザーはこのコンピュータを ...」を選択してください。「ユーザーはこのコンピュータを ...」以外を選択すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

- 11 「完了」をクリックします。
「Windows へログオン」ウィンドウが表示されます。
- 12 手順 5 で入力したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
「Windows 2000 の紹介」ウィンドウが表示されます。
- 13 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
- 14 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
Windows が再起動し、「Windows へログオン」ウィンドウが表示されます。

重要

- ▶ セットアップ前にリカバリを行っている場合は、「グラフィックスドライバのインストール」(→ P.20) へ進んでください。
この場合、以降の手順は行わないでください。

- 15 ログオンします。
- 16 デスクトップの「必ず実行してください」アイコンをダブルクリックします。
「このワークステーションに最適な設定を行います」というウィンドウが表示されます。

重要

- ▶ 「必ず実行してください」を行わないと、セットアップの最終設定が行われません。必ず手順どおりに実行してください。

- 17 「実行する」をクリックします。
自動設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

重要

- ▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「実行する」をクリックしてください。

- 18 「OK」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。

これで、Windows セットアップが完了しました。

■セットアップ後

- Windows 2000 ダウングレードモデルには、Windows 2000のリカバリ CD-ROMは添付されていません。Windows 2000をお使いになる場合は、セットアップ後すぐに、Windows 2000のリカバリ CD-ROMを作成してください(→P.24)。Windows XPをお使いになる場合は、添付のリカバリ CD-ROMでリカバリを行ってください(→P.30)。
- 『CELSIUS マニュアル』をご覧になるためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、LANの設定を行ってください。
- 「Windows Update」の実行をお勧めします。
「Windows Update」を実行すると、Windowsを最新の状態に更新、修正できます。実行にあたっては、システム管理者の指示に従ってください。
「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。
「Windows Update」の実行方法については、『CELSIUS マニュアル』の「ソフトウェア」－「Windows Updateについて」をご覧ください。

グラフィックスドライバのインストール

リカバリ後は、セットアップを行ってもグラフィックスドライバがインストールされていません。お使いのグラフィックスカードのドライバをインストールしてください。

■Windows XP モデル

□Millennium G450 の場合

POINT

- ▶ ドライバをインストールする前に、ドライバフォルダをハードディスクにコピーする必要があります。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)」を選択し、「次へ」をクリックします。
「次のハードウェアのソフトウェアがこのコンピュータ上に見つかりませんでした」と表示されます。
- 3 「いいえ、今すぐにはインターネットに接続しません。」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「このハードウェアをインストールできません」と表示されます。
- 4 「完了」をクリックします。
 - 再び「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」ウィンドウが表示された場合
手順2に戻ってください。
- 5 「ドライバズ CD」をセットします。

- 6 ドライバフォルダをコピーするためのフォルダ(c:\temp等)をハードディスクに作成します。
- 7 ドライバズ CD 内の次のドライバフォルダを手順6で作成したフォルダにコピーします。
[CD-ROMドライブ]: $\displaystyle\mathtt{display\matrox}$
- 8 コピーが終了したら、手順5でセットした「ドライバズ CD」を取り出してください。
- 9 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 10 名前に次のように入力して「OK」をクリックします。
[ドライバフォルダをコピーしたドライブ]: $\mathtt{[手順6で作成したフォルダ]\mathtt{matrox\mathtt{setup.exe}}}$
「Matrox PowerDesk セットアップ」ウィンドウが表示されます。
- 11 「日本語」を選択し、「次へ」をクリックします。
このソフトウェアでサポートされているデバイスが表示されます。
- 12 「次へ」を3回クリックします。
再起動メッセージが表示されます。
- 13 「完了」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。
- 14 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 15 「スタート」メニューの「必ず実行してください」をクリックします。
「このワークステーションに最適な設定を行います」というウィンドウが表示されます。

重要

- ▶ 「必ず実行してください」を行わないと、最終設定が行われません。必ず手順通りに実行してください。

- 16 「実行する」をクリックします。
自動設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

重要

- ▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「実行する」をクリックしてください。

- 17 「OK」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。

□Quadro FX 1000、Quadro FX 2000 の場合

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」ウィンドウが表示されます。

2 「ソフトウェアを自動的にインストールする（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックします。

■「次のハードウェアのソフトウェアがこのコンピュータ上に見つかりませんでした」と表示された場合
手順3へ進んでください。

■「このハードウェアをインストールできません」と表示された場合
手順4へ進んでください。

3 「いいえ、今すぐインターネットに接続しません」を選択し、「次へ」をクリックします。

「このハードウェアをインストールできません」と表示されます。

4 「完了」をクリックします。

5 「ドライバーズ CD」をセットします。

6 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

7 名前に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]: $\%display\%quadro\%setup.exe$

「NVIDIA Windows 2000/XP Display Drivers」ウィンドウが表示されます。

8 「Next」をクリックします。

9 「License Agreement」ウィンドウが表示されたら内容を確認し、「Yes」をクリックします。

10 「Yes, I want to restart my computer now.」を選択し、「Finish」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。

11 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

12 「スタート」メニューの「必ず実行してください」をクリックします。
「このワークステーションに最適な設定を行います。」というウィンドウが表示されます。

重要

▶ 「必ず実行してください」を行わないと、最終設定が行われません。必ず手順通りに実行してください。

13 「実行する」をクリックします。

自動設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

重要

▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「実行する」をクリックしてください。

14 手順5でセットした「ドライバーズ CD」を取り出してください。

15 「OK」をクリックします。

本ワークステーションが再起動します。

□Wildcat4 7110 の場合

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

POINT

▶ 「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」ウィンドウが複数表示される場合があります。この場合、すべて「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

2 「ドライバーズ CD」をセットします。

3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

4 「名前」に次のように入力して「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]: $\%display\%3dlabs\%xp\%wcgdrv$

$\%setup.exe$

「Wildcat ディスプレイドライバのインストール」ウィンドウが表示された後、画面が真っ暗になります。しばらくして画面が表示され、「Wildcat ディスプレイドライバのインストール」ウィンドウが消えたら、次の手順に進んでください。

5 「スタート」ボタン→「終了オプション」→「再起動」の順にクリックします。

本ワークステーションが再起動します。

6 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

7 「スタート」メニューの「必ず実行してください」をクリックします。

「このワークステーションに最適な設定を行います」というウィンドウが表示されます。

重要

▶ 「必ず実行してください」を行わないと、最終設定が行われません。必ず手順通りに実行してください。

8 「実行する」をクリックします。

自動設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

重要

▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「実行する」をクリックしてください。

9 手順2でセットした「ドライバーズ CD」を取り出してください。

10 「OK」をクリックします。

本ワークステーションが再起動します。

□ Millennium G450 の場合

▶ ドライバをインストールする前に、ドライバフォルダをハードディスクにコピーする必要があります。

- 重要**

- ▶「必ず実行してください」を行わないと、最終設定が行われません。必ず手順通りに実行してください。

- 17 「実行する」をクリックします。**
自動設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「実行する」をクリックしてください。

- 18 「OK」をクリックします。**
本ワークステーションが再起動します。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」ウィンドウが表示されます。
- 2 「次へ」をクリックします。
- 3 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 「場所の指定」のチェックをはずし、「次へ」をクリックします。
- 5 「デバイスを無効にする」を選択し、「完了」をクリックします。
- 6 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 7 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 8 名前に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]: $\%display\%quadro\%setup.exe$
「NVIDIA Windows 2000/XP Display Drivers」ウィンドウが表示されます。
- 9 「Next」をクリックします。
- 10 「License Agreement」ウィンドウが表示されたら内容を確認し、「Yes」をクリックします。
- 11 「Yes, I want to restart my computer now.」を選択し、「Finish」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。
- 12 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 13 デスクトップの「必ず実行してください」アイコンをダブルクリックします。
「このワークステーションに最適な設定を行います」というウィンドウが表示されます。

重要

- ▶ 「必ず実行してください」を行わないと、最終設定が行われません。必ず手順通りに実行してください。

14 「実行する」をクリックします。

自動設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

重要

- ▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「実行する」をクリックしてください。

15 手順6でセットした「ドライバーズ CD」を取り出してください。

16 「OK」をクリックします。

本ワークステーションが再起動します。

□ Wildcat4 7110 の場合

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

POINT

- ▶ 「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」ウィンドウが複数表示される場合があります。この場合、すべて「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

2 「ドライバーズ CD」をセットします。

3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

4 「名前」に次のように入力して「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]: ¥display¥3dlabs¥2k¥wcgdrv

¥setup.exe

「Wildcat ディスプレイドライバのインストール」ウィンドウが表示された後、画面が真っ暗になります。しばらくして画面が表示され、「Wildcat ディスプレイドライバのインストール」ウィンドウが消えたら、次の手順に進んでください。

5 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」をクリックして、「OK」をクリックします。

本ワークステーションが再起動します。

6 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

7 デスクトップの「必ず実行してください」アイコンをダブルクリックします。

「このワークステーションに最適な設定を行います」というウィンドウが表示されます。

重要

- ▶ 「必ず実行してください」を行わないと、最終設定が行われません。必ず手順通りに実行してください。

8 「実行する」をクリックします。

自動設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

重要

- ▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「実行する」をクリックしてください。

9 手順2でセットした「ドライバーズ CD」を取り出してください。

10 「OK」をクリックします。

本ワークステーションが再起動します。

セッティングで困ったときは

セッティング中に動かなくなった、など困ったことがあったときには、次の項目をご覧ください。

□ 電源を入れても画面が表示されない

- 電源を切り、ディスプレイなどの接続を確認してください。

□ Windows セットアップが進められなくなった

- 「電源を切る」(→ P.25) をご覧になり、本ワークステーションの電源を一度切った後でセットアップをやり直してください。

□ 電源を入れた後、画面が中央に表示されない、画面が見にくい

- 設定機能があるディスプレイをお使いの場合は、ディスプレイのマニュアルをご覧になり調整してください。

□ 起動時などの音がうるさい

- Windows セットアップ時に音が鳴ります。スピーカーを接続している場合は、ボリュームを調整してください。

□ 「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される

- お使いのモニタに合わせたドライバをインストールしてください。

Windows 2000 のリカバリ CD-ROM を作成する

Windows 2000 ダウングレードモデルには、Windows 2000 のリカバリ CD-ROM が添付されていません。

Windows 2000 をお使いになる場合は、次の手順に従い、セットアップ後すぐに、Windows 2000 のリカバリ CD-ROM を作成してください。

また、作成したリカバリ CD-ROM は判別できるようにして、大切に保管してください。

重要

- ▶ リカバリ CD-ROM は、「D:\Backup」フォルダのデータを使い作成します。このデータが失われると、リカバリ CD-ROM を作成できません。セットアップ後すぐにリカバリ CD-ROM を作成してください。

■対応モデル

- Windows 2000 ダウングレードモデル

■必要なもの

- 添付の「リカバリ CD-ROM1」(Windows XP Professional)
- 1.44MB フォーマット済 2HD フロッピーディスク 1 枚 (購入してください)
- CD-R 2 枚 (購入してください)
- CD を作成できる光ドライブ (DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ)
- 起動可能な CD を作成できるソフトウェア

POINT

- ▶ リカバリCD-ROMの作成には、CDを作成できる光ドライブと起動可能なCDを作成できるソフトウェアが必要になります。
ここでは、DVD-ROM&CD-R/RWドライブとRecordNowを使用した場合の手順を記載しています。
- ▶ 推奨するディスクやドライブについては、『CELSIUS』マニュアルをご覧ください。

リカバリ CD-ROM 起動ディスクを作成する

POINT

- ▶ 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」は、リカバリ CD-ROM を作成するときのみ必要です。リカバリ CD-ROM を作成後は、保管の必要はありません。

- 1 必要に応じて、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブをワークステーション本体に取り付けます (→『CELSIUS マニュアル』、周辺機器のマニュアル)。
- 2 「リカバリ CD-ROM1」をセットします。

- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:¥fjuty¥mkbfd.exe
「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」作成ウィザード
ウィンドウが表示されます。
- 5 「次へ」をクリックします。
- 6 作成するフロッピーディスクが書き込み可能な状態であることを確認し、フロッピーディスクドライブにセットして、「次へ」をクリックします。
- 7 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の作成が始まります。
しばらくすると「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」が作成されました」と表示されます。

続けて、リカバリ CD-ROM を作成してください。

リカバリ CD-ROM を作成する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Sonic」→「RecordNow DX」→「RecordNow DX」の順にクリックします。
「Sonic RecordNow DX Wizard」ウィンドウが表示されます。
- 2 「Sonic RecordNow DX に戻る」をクリックします。
- 3 「ファイル」メニュー→「新規ジョブ」→「データディスク」の順にクリックします。
- 4 「編集」メニュー→「ファイルとフォルダの追加」をクリックします。
「ファイルとフォルダの追加」ウィンドウが表示されます。
- 5 「ファイルの場所」に「D:\Backup¥Disk1」フォルダを指定します。
- 6 「Disk1」フォルダ内のすべてのファイルとフォルダを選択し、「追加」をクリックします。
「ディスク上のフォルダまたはファイル」に、選択したすべてのファイルとフォルダが表示されます。
- 7 「編集」メニュー→「作成オプション」の順にクリックします。
- 8 「データジョブオプション」ウィンドウが表示されます。
- 9 「ブータブル CD (CD のみ有効)」の「CD のブート元」をチェックし、「ブートフロッピー」が選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。
- 10 フロッピーディスクドライブに、作成したリカバリ CD-ROM 起動ディスクをセットします。
- 11 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブに、用意した CD-R をセットします。

- 12** 「ファイル」メニュー→「作成」の順にクリックします。
CD-R への書き込みが始まります。
1 枚目の書き込みが終了すると「Sonic RecordNow DX」ウィンドウが表示されます。
- 13** 「OK」をクリックし、CD-R とリカバリ CD-ROM 起動ディスクを取り出します。
書き込みを終了した CD-R は「リカバリ CD-ROM1」になります。
- 14** 「ファイル」メニュー→「新規ジョブ」→「データディスク」の順にクリックします。
- 15** 「編集」→「ファイルとフォルダの追加」をクリックします。
「ファイルとフォルダの追加」ウィンドウが表示されます。
- 16** 「ファイルの場所」に「D:\Backup\Disk2」フォルダを指定します。
- 17** 「Disk2」フォルダ内のすべてのファイルを選択し、「追加」をクリックします。
「ディスク上のフォルダまたはファイル」に、選択したすべてのファイルが表示されます。
- 18** DVD-ROM&CD-R/RW ドライブに、用意した CD-R をセットします。
- 19** 「ファイル」メニュー→「作成」の順にクリックします。
CD-R への書き込みが始まります。
2 枚目の書き込みが終了すると「Sonic RecordNow DX」ウィンドウが表示されます。
- 20** 「OK」をクリックし、CD-R を取り出します。
書き込みを終了した CD-R は「リカバリ CD-ROM2」になります。
- 21** RecordNow を終了します。

確認する

リカバリ CD-ROM が正常に作成できているかどうか、次の点を確認してください。問題がある場合は、リカバリ CD-ROM は正常に作成されていません。手順を確認して、再度作成してください。

- リカバリ CD-ROM にデータが書き込まれていますか？(すべてのデータを確認する必要はありません)
 - ・「リカバリ CD-ROM1」に「D:\Backup\Disk1」フォルダ内のデータが書き込まれていますか。
 - ・「リカバリ CD-ROM2」に「D:\Backup\Disk2」フォルダ内のデータが書き込まれていますか。
- 作成したリカバリ CD-ROM を使い、本ワークステーションが起動できますか。
「リカバリ方法 (ご購入時の状態に戻す)」(→ P.30) の手順をご覧ください。「リカバリ CD-ROM」画面が表示されるところまで操作できれば、起動できるリカバリ CD-ROM が作成されています。その後、**[N]** キーを押し、リカバリ

を中断してください。

この確認をする場合は、「リカバリ」(→ P.29)、「リカバリ操作」(→ P.30) をよくお読みになり、正しく操作してください。

電源を切る

注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切る前に、フロッピーディスクアクセスランプや状態表示 LCD のハードディスクアクセス表示 (→『CELSIUS マニュアル』) が消えていることを確認してください。点滅中に電源を切ると、作業中のデータが保存できなかったり、フロッピーディスクやハードディスク内部のデータが破壊されたりするおそれがあります。
- 長期間お使いにならない場合は、ワークステーション本体背面のメインスイッチを「○」側に切り替えてください。
- 電源が入っている状態で、電源プラグをコンセントから抜いたり、停電によって電源が切断された場合は、再び電源プラグをコンセントに差し込むか、復電してから電源ボタンを押してください。ただし、BIOS Setup Utility の「Power」－「Power On/Off」－「Power Failure Recovery」(→『CELSIUS マニュアル』) が「Always On」または「Previous State」に設定されている場合、電源ボタンを押す必要はありません。復電すると自動的に電源が入り、本ワークステーションが起動します。
- POST (自己診断) 時に電源を切らないでください。OS が完全に起動してから、「電源の切り方」の手順で切ってください。
- 電源を切ったあとすぐに電源を入れる場合は、10 秒間ほど間隔をあけてから行ってください。
- 通常的手段で電源が切れない場合や再起動できない場合、4 秒以上電源スイッチを押し続けて、電源を切ってください。ただし、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ると、ハードディスクを破壊するおそれがあります。緊急の場合以外は行わないでください。
- 電源を完全に切断するには、ワークステーション本体背面のメインスイッチを「○」側に切り換えるか、電源プラグをコンセントから抜いてください (電源ボタンを使用してもワークステーション本体の電源は完全には切断されません)。

電源の切り方

次の操作を行うと、電源が自動的に切れます。

■Windows XP の場合

「スタート」ボタン→「終了オプション」→「電源を切る」の順にクリックします。



■Windows 2000 の場合

「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「シャットダウン」を選択して「OK」をクリックします。



POINT

- ▶ 上記操作で電源が切れない場合、次の手順で電源を切ってください。
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
 2. 次の手順を行うと、電源が自動的に切れます。
 - Windows XP の場合
「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
 - Windows 2000 の場合
「シャットダウン」をクリックし、「シャットダウン」を選択して「OK」をクリックします。
- ▶ 上記の画面で Windows を再起動するメニューを選択すると、本ワークステーションを再起動することができます。ソフトウェアをインストールした場合や、使用中のソフトウェアがなんらかの理由で動かなくなった場合などに、再起動を行います。再起動すると、メモリ内のデータが消失します。再起動する前に、必要なデータは保存してください。

2. 必要に応じてお読みください

ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定値を、本ワークステーションご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法について説明します。

BIOS セットアップを起動し、「Exit」メニューの「Get Default Values」を実行します。

POINT

- ▶ BIOS の設定を変更している場合は、ご購入時の状態に戻す前に、変更内容をメモしておくことをお勧めします。
- ▶ BIOS セットアップを起動する際、ディスプレイの種類によっては、画面表示が遅く「CELSIUS」ロゴの表示が確認できない場合があります。その場合は、インジケータの「Num Lock」が点灯した後、【F2】キーを数回押すようにしてください。

エラーについて

エラーメッセージ

本ワークステーション起動時にエラーメッセージが表示された場合は、エラーメッセージを確認し、次の処置を行ってください。

●BIOS Setup Utility を実行する

BIOS に関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS Setup Utility を再実行してください。

●周辺機器の取り付けを確認する

オプションの拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込みレベルなど正しく設定されているかどうか確認してください。このとき、拡張カードに添付のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルも併せて参照してください。

上記の処置を実施しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へ連絡してください。

次に、エラーメッセージを示します。

括弧《》内の英数字《aabb》は、BIOS イベントログのイベント種別 aa およびイベント詳細 bb を示します。BIOS イベントログについては、『CELSIUS マニュアル』の「BIOS」－「メニュー詳細」－「System Information メニュー」をご覧ください。

●Available CPUs do not support the same bus frequency - System halted! 《018F》

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

●Check date and time settings 《0171》

BIOS セットアップを起動し、「Main」メニューの「System Time」および「SystemDate」を再設定してください。

●Diskette drive A error 《01B0》

フロッピーディスクドライブ診断でエラーが発生しました。フロッピーディスクドライブが正しく接続されていることを確認してください。正しく接続されている場合は、BIOS セットアップを起動し、「Main」メニューの「Diskette A:」が正しく設定されているかを確認してください。

●DMA Test Failed 《01F5》

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

●Expansion ROM not initialized

拡張カードの ROM の初期化に失敗しました。メモリ上の ROM 領域が不足している可能性があります。【F2】キーを押してBIOSセットアップを起動し、「Advanced」－「Advanced System Configuration」－「BIOS Work Space Location」を「Top of Base Memory」に設定してください。エラーが解消されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

●Extended RAM Failed at address line:nnnn 《0132》

拡張 RAM 診断でエラーが発生しました。メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。

●Failure Fixed Disk 《0100/0101/0102/0103》

ハードディスクドライブの設定に誤りがあります。BIOS セットアップの「Main」メニューの「IDE Drive 1/2/3/4」の設定を確認してください。

●Incorrect Drive A type - SETUP 《01B2》

フロッピーディスクドライブの種類の設定に誤りがあります。BIOS セットアップを起動し、「Main」メニューの「Diskette A:」が正しく設定されているかを確認してください。

●Intrusion detected-Confirm by password 《9101》

本体のサイドカバーが開かれた場合に 표시됩니다。本メッセージが表示されると自動的にBIOSセットアップが起動し、セットアップパスワードの入力が要求されます。セットアップパスワードを入力し、「Exit」メニューの「Save Changes & Exit」を実行してください。

●Invalid system disk

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。

●Keyboard controller error 《0112》

キーボードコントローラ診断でエラーが発生しました。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

●Keyboard error 《0111》

キーボード診断でエラーが発生しました。キーボードが正しく接続されているか確認してください。

●Operating System not found

OSが見つかりませんでした。ドライブにOSが入っているかを確認してください。入っている場合は、BIOS セットアップを起動し、OS を起動するドライブが正しく設定されているかを確認してください。

●Password checksum bad - Passwords cleared 《0152》

BIOS セットアップを起動し、「Security」メニューのパスワードを再設定してください。

●Press <F1> to resume, <F2> to setup

POST 中にエラーが発生すると OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと、OS の起動を開始します。【F2】キーを押すと、BIOS セットアップを起動し、設定を変更することができます。

●Previous boot incomplete - Default Configuration used 《0180》

BIOS セットアップを起動し、各設定を確認して、再度保存してください。

●PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」－「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。

●PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」－「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。

●PXE-E53:No boot filename received

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」－「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。

●PXE-E61:Media test failure, Check cable

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。

●PXE-E78:Could not locate boot server

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」－「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。

●PXE-T01: File not found

PXE-E3B: TFTP Error - File Not found

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」－「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。

●PXE-T01:File not found

PXE-E89:could not download boot image

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」－「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。

●Real time clock error 《0170》

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

●Shadow RAM Failed at offset:nnnn 《0131》

Shadow RAM 診断でエラーが発生しました。メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。

●Single-bit ECC error occured. 《0134》

いったん電源を切って、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。それでも発生する場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。

●Software NMI Failed 《01F6》

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

●System battery is dead - Replace and run SETUP 《0150》

System Monitoring : Battery Voltage is Out of Range. 《9102》

バッテリーの交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

●System cache error - Cache disabled 《01D0》

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

●System CMOS checksum bad - Default configuration used

《0151》

BIOS セットアップを起動し、各設定を確認して、再度保存してください。

●System Configuration Data updated

システム構成が変更された場合に表示されます。本ワークステーションに不具合は発生しておりませんので、続けてお使いください。

●System Management Configuration changed or problem occurred 《01FA》

CPU ファン、フロントファンが壊れていないこと、および本体のサイドカバーが開いていないことを確認してください。

●System Monitoring : A fan failed 《911F》

CPU ファン、フロントファンが壊れていないこと、ファンの電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。確認後、BIOS セットアップを起動し、「Exit」－「Save Changes & Exit」を実行してください。

●System Monitoring : A sensor failed 《912F》

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

●System RAM Failed at offset:nnnn 《0130》

システム RAM 診断でエラーが発生しました。メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。

●System timer error 《0160》

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

●Hard Disk n Password Expired!-Power-off/on to unlock the hard disk.

Reboot the system or press any key to continue

誤ったハードディスクパスワードを何回か入力したため、n 番目のハードディスクのパスワード機能が無効になりました。ハードディスクはロックされています。

ロックを解除する場合は、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れ、正しいハードディスクパスワードを入力してください。

 POINT

- ▶ 本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

ビープ音をともなうエラー

本ワークステーション起動時にビープ音が鳴った場合は、ビープ音の回数の組み合わせを確認し、対処してください。対処した後もまだビープ音が鳴る場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へ連絡してください。

POINT

- ▶ ビープ音によるエラー通知は、「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。ここではビープ音の回数の組み合わせを、「1-2-2-3」のように表記しています。
- ▶ 下表の組み合わせ以外の鳴り方をした場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

ビープ音の回数	原因と対処方法
1-2 (1回目のビープ音は「ピーッ」と長めに鳴ります)	PCIデバイス上のROMでエラーが発生しています。 ・ オプションのPCIカードを取り付けている場合は、正しく取り付けてあるか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。市販のPCIカードの場合は、製造元・販売元にご確認ください。 ・ ディスプレイカードが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。 ・ PCIカードを取り付けていないにもかかわらず、ビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
1-1-1-1 1-3-3-1 1-3-3-2 1-3-4-1 1-3-4-3 1-4-1-1	メモリのテストエラーです。 - メモリが正しく取り付けられていないか、本ワークステーションでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。 - メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

リカバリ

Windows が起動しないなどの問題が発生した場合、ハードディスクの領域を変更したい場合は、リカバリまたは再インストールを行います。

リカバリの概要と手順

■対応 OS

- 全 OS

■概要

リカバリとは、「リカバリ CD-ROM」を使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態（→『CELSIUS マニュアル』）に戻す操作です。

リカバリは、大きく2種類に分かれます。

●ご購入時の状態に戻す

現在のハードディスクの領域設定はそのまま、Cドライブをご購入時の状態に戻します。

●領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す

ハードディスクの領域を設定した後、ご購入時の状態に戻します。現在のハードディスク領域を変更したいとき、またはハードディスクを増設したときには、領域設定が必要になります。

■手順

リカバリは次の手順で行います。

□ご購入時の状態に戻す手順

ハードディスクの領域設定は現在お使いの状態のまま、Cドライブのみをリカバリします。

- 1 リカバリ前の準備（→ P.30）
- 2 リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）（→ P.30）
- 3 リカバリ終了後（→ P.31）

□領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す手順

リカバリ中に画面上で確認しながら、ハードディスクの領域を再設定します。

100MB単位で2区画まで設定できます。

- 1 リカバリ前の準備（→ P.30）
- 2 リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）（→ P.31）
- 3 リカバリ終了後（→ P.31）

留意事項

■全 OS 共通の留意事項

- リカバリやハードディスクの領域の変更を行うと、Cドライブのファイルはすべて削除されます。また、「領域を設

定したあと、「ご購入時の状態に戻す」を選択してリカバリを行うと、Dドライブのファイルもすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行うようにしてください。

なお、Windows 2000ダウングレードモデルをお使いの場合は、DドライブにリカバリCD-ROMを作成するために必要なデータが含まれていますので、ご注意ください。

- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- リカバリを終えてセットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。
- カスタムメイドオプションのアプリケーションはリカバリされません。
- 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」を選択した場合は、リカバリを行っても、Cドライブ以外のドライブはフォーマットされません。
- 領域設定できる最大容量はお使いになるハードディスクにより若干異なります。

□Windows XP の留意事項

- Windows 起動中に「リカバリ CD-ROM」をセットすると、「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されます。「キャンセル」をクリックしてください。

□Windows 2000 の留意事項

- Windows 2000 では、リカバリを行うと、CドライブはFAT32に設定されます。CドライブをNTFSに変換していた場合は、リカバリ後再度NTFSに変換してください(→『CELSIUS マニュアル』)。

リカバリ操作

本ワークステーションをご購入時の状態に戻す「リカバリ」の方法を説明します。

POINT

- ▶ リカバリに関する留意事項(→P.29)をよくお読みのうえ、リカバリを行ってください。

リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の操作を行ってください。

■BIOS 設定について

BIOS の設定をご購入時の設定に戻します(→P.26)。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定にしていると、インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。

リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）

本ワークステーションをご購入時の状態に戻します。ハードディスクの領域は変更されません。

POINT

- ▶ リカバリを行うと、Cドライブのファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行ってください。

次のものを用意してください。

- Windows XP の場合：「リカバリ CD-ROM 1、2、3」
Windows 2000 の場合：「リカバリ CD-ROM 1、2」
- 1 「リカバリ CD-ROM 1」をセットします。
- 2 本ワークステーションを再起動します。
- 3 「CELSIUS」ロゴの下に文字が表示されている間に、【F12】キーを押します。
Boot Menu が表示されます。
【F12】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
- 4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
「リカバリメニュー」画面が表示されます。
- 5 リカバリを選択し、【Enter】キーを押します。
「リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。
- 6 【Page Up】【Page Down】キーで説明をスクロールし、内容を確認して、【Y】キーを押します。
- 7 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」が反転表示されていることを確認して【Enter】キーを押します。
確認の画面が表示されます。
- 8 【Y】キーを押します。
しばらくするとリカバリの画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。
「No.X のメディアをドライブ Z: に入れてください。」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM X」をセットし、しばらくしてから【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。「リカバリ CD-ROM」は画面に表示されたものを、セットしてください。
リカバリが終了すると「正常にソフトウェアの復元作業が行われました。」と表示されます。
- 9 CD-ROM を取り出してから、本ワークステーションの電源を切ります。
- 10 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください(→P.31)。

リカバリ方法

(領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す)

ハードディスクの領域を設定した後、ご購入時の状態に戻します。

リカバリ中に画面で確認しながら、100MB 単位で2 区画までの領域を設定できます。

重要

- ▶ 領域の設定を行うことにより、ハードディスクのデータがすべて失われます。あらかじめ必要なデータはバックアップしておいてください。

次のものを用意してください。

- Windows XP の場合 : 「リカバリ CD-ROM 1、2、3」
Windows 2000 の場合 : 「リカバリ CD-ROM 1、2」
 - 1 「リカバリ CD-ROM 1」をセットします。
 - 2 本ワークステーションを再起動します。
 - 3 「CELSIUS」ロゴの下に文字が表示されている間に、
【F12】キーを押します。
Boot Menu が表示されます。
【F12】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
 - 4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
「リカバリメニュー」画面が表示されます。
 - 5 リカバリを選択し、【Enter】キーを押します。
「リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。
 - 6 【Page Up】【Page Down】キーで説明をスクロールし、内容を確認して、【Y】キーを押します。
 - 7 「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
 - 8 領域の設定方法により、次の操作のどちらかを行います。
 - ・「領域を任意に設定して戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
C ドライブの容量を任意に設定してください。【←】
【→】キーを押すと、100MB 単位で、領域を設定できます。
ハードディスク全体をCドライブとして設定したい場合は、【P】キーを押し、項目にチェックマークを付けてください。
設定が完了したら、【Enter】キーを押します。
 - ・「領域をご購入時の状態にして戻す」を選択し、
【Enter】キーを押します。
ハードディスク内の領域が、ご購入時の設定となります。

POINT

- ▶ 領域を変更すると、ハードディスク内のすべてのデータが失われます。

9 【Y】キーを押します。

領域の設定が行われた後、リカバリの画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。

「No.X のメディアをドライブ Z: に入れてください。」

と表示されたら、「リカバリ CD-ROM X」をセットし、しばらくしてから【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。「リカバリ CD-ROM」は画面に表示されたものを、セットしてください。

リカバリが終了すると「正常にソフトウェアの復元作業が行われました。」と表示されます。

10 CD-ROM を取り出してから、本ワークステーションの電源を切ります。

11 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください (→ P.31)。

リカバリ終了後

本ワークステーションの電源を切った後、次の操作を行ってください。

- 1 周辺機器が取り付けられている場合は、すべて取り外します (カスタムメイドオプションを除く)。
- 2 本ワークステーションの電源を入れます。
- 3 以降、「セットアップ」を参照して Windows のセットアップを行ってください (→ P.16)。

以上でリカバリは終了です。

セットアップ後、必要に応じてソフトウェアをアンインストールしてください (→ 『CELSIUS マニュアル』)。

また、必要に応じてドライバ、添付アプリケーションまたはカスタムメイドオプションのアプリケーションをインストールします。

お問い合わせ先

■お問い合わせの前に

あらかじめ次の項目について確認してください。

□品名／型名／カスタムメイド型番の確認

ワークステーション本体のラベルに記載されています。

●上正面に貼付

型名	CLXXXXXX
製造番号	XXXXXXX

●背面に貼付

品名	品名 CELSIUS XXXX
型名	型名 CLXXXXXX P/N XXXXXXXX
カスタム メイド型番	カスタムメイド0000-0000-0000-0000 MADE IN JAPAN 富士通株式会社

□リカバリ CD-ROM の用意

本ワークステーションの修理を依頼する場合は、必ずリカバリ CD-ROM を添付してください。

□本ワークステーションの施錠について

ワークステーション本体を施錠している場合は、本ワークステーションの修理を依頼する前に、あらかじめ解錠してください。

重要

- ▶ 施錠する場合は、お客様の責任で、サイドカバーキーを紛失しないようにしてください。
- ▶ サイドカバーキーを紛失した場合は、引取修理によるサイドカバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかわらず、鍵の紛失によるサイドカバーの交換は有償となります。
- ▶ サイドカバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。
引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

■連絡先

こんなときには	こちらへ
・ 添付品の不備	ご購入元にご相談ください。
・ 故障かなと思われたとき	富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ (http://www.fmwORLD.net/biz/) 内の『CELSIUS マニュアル』に記載されている「トラブルシューティング」をご覧ください。 注『CELSIUS マニュアル』は、「スタート」ボタン→「(すべての) プログラム」→「CELSIUS マニュアル」からご覧いただけます。 それでも解決できない場合は、ご購入元にご相談いただくか、または「富士通ハードウェア修理相談センター」 ^{注1} にお問い合わせください。
・ CELSIUS シリーズの技術的なご質問・ご相談	・ 富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ (http://www.fmwORLD.net/biz/) 内の『CELSIUS マニュアル』をご覧ください。
・ 本ワークステーションにインストールされているソフトウェアのお問い合わせ	・ ソフトウェアのお問い合わせにつきましては、『CELSIUS マニュアル』の「トラブルシューティング」→「お問い合わせ先」をご覧ください。 それでも不明な点がございましたら、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」 ^{注2} にお問い合わせください。

注1：「富士通ハードウェア修理相談センター」

- ・ フリーダイヤル：0120-422-297
- ・ 受付時間：9:00～17:00
(土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)

注2：「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」

- ・ フリーダイヤル：0120-950-222
- ・ 受付時間：9:00～17:00
(土曜・日曜・祝日およびシステムメンテナンス日を除く)

- ・ おかけ間違いのないよう、ご注意ください
- ・ 両窓口ともダイヤル後、音声ガイダンスに従い、ボタン操作を行ってください。お客様の相談内容によって、各窓口へご案内いたします。

リサイクルについて

■本製品の廃棄について

本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

●法人・企業のお客様へ

本製品を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託する必要があります。弊社では、「富士通りサイクル受付センター」を用意し、お客様の廃棄のお手伝いをしておりますのでご利用ください。

詳しくはホームページ（<http://eco.fujitsu.com/jp>）の「富士通りサイクルシステム」をご覧ください。

●個人のお客様へ

本製品を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

Memo _____

CELSIUS M420

取扱説明書
B5FH-9601-03-02

発行日 2004 年 2 月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

